

# アンナ・サワイにビビッと

## 「SHOGUN 将軍」 エミー賞キャスト賞



エミー賞のトロフィーとともに「SHOGUN」の手応えを語る川村さん（東京都内）

エミー賞18部門受賞の快挙を遂げたテイズニー製作のハリウッド時代劇「SHOGUN 将軍」。キャスト賞の受賞者には、電通キャストینگアンド エンタテインメントの川村恵さんが名を連ねている。陰の立役者とも言えるこの仕事への思いを、川村さんに尋ねた。

評価される枝葉の一つとしてキャスト賞もあるもので、本場に光栄。奇跡が起きたって感じ」と受賞を喜ぶ。

電通グループでエンタメ雑誌などを長年担当した後、同社が関わった2005年公開の映画「亡国のイージス」で初めてキャストینگを担当した。海外作品では、遠藤周作の小説を映像化した米映画「沈黙—サイレンス—」に参加。実績が認められ、本作でも声がかかった。

主人公・虎永役の真田広之はすぐ決まったが、他の配役には慎重だった。コロナ禍だったこともあり、撮影地のカナダに10か月間こもることに難色を示す者もいた。海外のオーディションでは、役にふさわしければ有名、無名は関係ないといい、オンラインを駆使し、10役以上のオーディションを行った。

印象深いのは、主演女優賞に選ばれた響子役のアンナ・サワイだ。通訳の役なのでネイティブの英語力と日本語力があり、

ヒロインにふさわしい俳優としての力量を持つという激しい条件。さらに、激しい殺陣も可能な身体能力を有することも求められた。日本や欧米から多くの応募があったが、「アンナさんがオンラインで登場した瞬間、ビビッときて『響子がいた』って言ってしまった」。

虎永配下ながら裏切りの気配を漂わせる武將役の浅野忠信にも手応えがあった。「人間臭く、本当にいい役だけど難しい。裏の主人公のような役で、役にはまった浅野さんを見たときに『やった！』と思いました」

両主演と浅野、本作は1月発表のゴールデン・グローブ賞各部門で候補となり、改めて注目を集めている。キャストینگをしていて何よりうれしいのは、完成作を見て自分の仕事に確信が持てた時だという。

「作品にとっても出演者は縁や運命。最終的にジグソーパズルのピースみたいにカチッとハマることは、もう最初からたぶん決まっていた、そのために私は一生懸命そのピースを探しまくっているのかもしれない」

（辻本芳孝）